

教科	技術・家庭	学年	1		
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ガイダンス	3	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会に果たす役割や影響に基づいた材料と加工の概念について考えることができる。 技術の進展と環境との関係について考えることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 技術が生活を向上させ、産業の発展と警鐘に影響を与えていることに気づき、技術が果たしている役割に関心を示している。 技術の進展と環境との関係に関心を示している。
木材加工による製作品の設計・製作による問題解決	19	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に製作に取り組むことができる。 材料と加工の特性等の原理・法則と、構造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解することができる。 技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 製作に必要な図をかくことができる。 問題を見出し、課題を設定し、設計を具体化するとともに製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。 適切な図法を用いて、製作に必要な図をかくことができる技能を身に付けている。 工具や機器を使用して、安全・適切に材料取り、部品加工、組み立て・接合、仕上げができる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決策を、条件を踏まえて構想し、製作図等に表す力を身に付けている。 設計に基づく合理的な解決作業について考える力を身に付けている。 課題の解決結果や解決過程を評価、改善及び修正する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返りよりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。
生活や社会を支える情報技術	2	<ul style="list-style-type: none"> 情報の表現・記録・通信などの特性の原理・原則、情報のデジタル化やシステム化や情報の量を理解することができる。 情報通信ネットワークの構成を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の表現、記録、計算などの科学的な原理法則や情報のデジタル化などに関わる基礎的な技術の仕組みの知識を身に付けている。 ネットワークの仕組みの知識を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。
ネットワークを利用した双方向のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	11	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に制作に取り組むことができる。 安全・適切なプログラムを制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全適切なプログラムの制作、及びデバッグ等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムがよりよいものとなるよう改善及び修正をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。
自分の成長と家族・家族生活	1	<ul style="list-style-type: none"> これまで成長してきた中で関わってきた人について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 家族や関わってきた周りの人々のおかげで成長できたことに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長からこれからの将来の生活について問題を見いだして課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長の振り返りを通して、自分と家族の関わりについて関心をもって学習に取り組もうとしている。
衣生活と自立、衣服の選択と手入れ、和服と洋服の違い	8	<ul style="list-style-type: none"> OTPOの応じた適切な衣服を考えることができる。 衣服の表示や素材の違いによる手入れができる。 洋服と和服の違いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
裁縫の基礎、生活を豊かにするための製作	12	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作を通してまつり縫い、ミシンで直線縫い、スナップ付けなどの基礎縫いや手入れ・修復の技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い製作が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
住まいの機能、安全な住まい、家族と住空間、住空間の整え方	11	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割を理解する。 日本各地の住まいと特徴を理解する。 日本の気候風土や特性に合わせた住まいや、住まい方の特徴について考える。 家族と住む住空間について考える。 高齢者疑似体験を通して、高齢者の気持ちを考えて安全な住まいを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本各地の住まいとその特徴について理解することができる。 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭事故の防ぎ方や対策方法について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 住まいにおける災害への安全対策について考え工夫している。 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいに関心をもち、住まいの役割について考えようとしている。 日本の気候風土や地域の特性に合わせた住まいや住まい方の工夫について、意欲的に考えようとしている。 家族構成や生き方や価値観をふまえて、安全・快適・環境に配慮した住まいについて考え、改善策を実践しようとしている。 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
環境に配慮した消費生活	1	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活を振り返り、環境に配慮した消費生活について考える。 生活を豊かにする布製品を消費生活に生かす方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した衣服の計画的な活用の必要性について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した消費生活の工夫法を見出し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決するための力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した生活を送るために、自分の生活でできる具体的な方法を考えようとしている。 エコバッグの活用法や環境に配慮した生活を送ろうとよりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
衣生活・住生活についての課題と実践	2	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活・住生活を通して課題を設定し、実践したことをまとめる。生活を豊かにする方法を考え実践してみた成果と課題から改善策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの衣生活・住生活で学習した基礎内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活・住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、衣生活・住生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。

教科	技術・家庭	学年	2	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
生物の生育環境と育成技術	2	○ 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を理解する。 ○ 生育環境に関する技術の適切な評価・活用について考えることができる。 ○ 生物を取り巻く環境が与える影響の知識を身に付けている。	・生物の育成環境などの基礎的な技術の仕組みの知識を身に付けている。 ・作物、動物及び水産物の成長、生理などの科学的な原理・法則の知識を身に付けている。	・育成計画に基づき、記録したデータと作物の生育状況とを比べながら合理的な解決作業ができる。 ・生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、生物育成の技術が進化されてきたことに気づくことができる。 ・生物育成の技術を評価し、適切な選択・管理・運用の在り方についてまとめることができる。	・進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。	
生物育成の技術を利用した栽培	7	○ 栽培に意欲的に取り組もうとしている。 ○ 目的とする生物の育成に必要な条件を考案することができる。 ○ 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培ができる。 ○ 育成する生物における管理作業や必要な知識を身に付けることができる。	・作業管理や観察などを通して、安全・適切に育成環境の調整や、作物の管理・収穫ができる。 ・生物に適した栽培計画を立てることができる。	・育成計画に基づき、記録したデータと作物の生育状況とを比べながら合理的な解決作業ができる。 ・生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、生物育成の技術が進化されてきたことに気づくことができる。 ・生物育成の技術を評価し、適切な選択・管理・運用の在り方についてまとめることができる。	・進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ・生物の管理作業の過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。	
エネルギー変換の技術の問題解決の工夫を調べる	2	○ エネルギー変換についての科学的な原理・法則の仕組みについて理解している。	・エネルギー変換についての科学的な原理・法則と、エネルギー変換の基礎的な技術の仕組みの知識を身に付けている。	・エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気づくことができる。	・進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解しようとしている。	
エネルギー変換機器の仕組みと保守点検	2	○ 意欲的に製作に取り組むことができる。 ○ 機器の保守点検と事故の防止ができる。 ○ 機器の構造についての知識を身に付けている。	・エネルギー変換についての科学的な原理・法則と、エネルギー変換の基礎的な技術の仕組みの知識を身に付けている。 ・工具を適切に使い、機器の保守点検や事故の防止の知識を身に付けている。	・より安心・安全な社会の構築を目指して、エネルギー変換の技術を評価し、適切な管理・運用の仕方や、改良の方向性について提案できる。	・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。	
エネルギー変換の技術を利用した製作品の設計・製作	13	○ 意欲的に製作に取り組むことができる。 ○ 製作に適したエネルギー変換方法、構造や電気回路などを組み立てることができる。 ○ 設計に基づき製作品の組み立てや配線、点検ができる。 ○ 組立てや工具や機器の適切な使用方法について知識を身に付けている。	・設定した課題に基づき回路図を表すことができる。 ・工具を適切に用いて、安全・適切に製作することができ、製作品の動作点検及び調整等ができる。	・製作の過程に対する改善及び修正を考案することができる。	・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 ・より安心・安全な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。	
ネットワークを利用した双方向のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	9	○ 情報通信ネットワークの構成を理解することができる。 ○ 安全・適切なプログラムを制作することができる。	・安全適切なプログラムの制作、及びデバッグ等ができる。	・プログラムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考案することができる。	・進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。	
ガイダンス	1	○ 食生活を振り返り、食事の大切さ、重要さを理解する。	・食事の大切さや役割を理解している。	・食生活を振り返り、課題を見出し、解決策を構想しようとしている。	・食生活を振り返り、自分自身の食生活を振り返りつつようとしている。	
食事の役割と中学生の栄養の特徴	7	○ 必要な栄養素と、その栄養を摂取するための必要な摂取量を考案する。 ○ バランスを考えた献立を考案する。	・自分たちに必要な栄養素を理解できたか、またその栄養を摂取するために何をどのくらい食べれば良いかを理解している。 ・様々な食品を組み合わせることの重要さを考え、献立を適切に作成している。 ・生活の中で食事が果たす役について理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康により食習慣について意識している。	・バランスや彩りなどを工夫して献立を立てようとしている。 ・自分の食習慣について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・自分たちに必要な栄養素を知ろうとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
中学生に必要な栄養を満たす食事	4	○ 日本の伝統行事ごとに食べられてきた食事を知り、文化の大切さを知る。 ○ 日本の食料自給率の現状から今後を考える。	・行事ごとの食事とその持つ意味を理解できる。 ・栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解している。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解している。	・食料自給率の現状から、今自分でできることを考え、実践できることを構想しようとしている。 ・中学生の1日分の献立について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・食の問題を理解し今後の食選択を展覧できる。 ・よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
食の問題を見つめる	5	○ 栄養バランスを整えた献立を考案する。 ○ 使う食材の特徴や、調理性を考える。 ○ それぞれの考えた献立の発表を行う。	・栄養素の特徴と効果を理解したうえで、献立を考案することができる。	・食品に合った調理方法を工夫して選択しようとしている。	・日本の食問題や世界の食事情、食環境問題について興味をもち自分でできることを考えようとしている。	
日常食の調理と地域の食文化	9	○ 食べ物が自分自身をつくごころをとり、より良い食品選択が必要だと理解する。 ○ 生鮮食品・加工食品のメリット・デメリットを考案、特徴を生かした食選択を考案する。 ○ 生鮮食品の出回り期や加工食品の特徴を知り、的確に食品が選択できる。 ○ 伝統的な調理法、現代の技術による加工法を理解する。 ○ 家庭での食品ごとの保存方法を理解する。 ○ 加工食品に使われている添加物の問題点や危険性について考え、食選択を展覧する。 ○ 肉、魚、野菜などの特徴を生かした調理法や料理を知る。 ○ 調理で注意すべきこと、安全な器具の使い方を理解する。	・焼く、煮る、蒸すなどの調理方法のそれぞれの良さを理解しているとともに調理が適切にできる。 ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 ・地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。	・自分自身の体をつくる食品の選び方や組み合わせ方を工夫しようとしている。 ・食品の保存方法や作り、家庭に合った食品の方法を工夫しようとしている。 ・日常の1食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家庭での食品ごとの保存方法を理解し、家庭での生活を見直そうとしている。 ・加工食品に使われている添加物の問題点や危険性について考え、食選択を展覧し、自分の考えをまとめようとしている。 ・和食や一汁三菜の食事の良さを知り、興味を持とうとしている。 ・食の問題を理解し今後の食選択を展覧し、自分の考えをもととしている。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
消費生活と環境	8	○ 消費活動に伴う、権利と責任を理解し環境に配慮した消費生活について考える。 ○ 中学生に多いトラブルについて考え、その解決方法や対策を考案する。 ○ 環境や資源に配慮した暮らし方を理解させ、環境に配慮した生活について考える。	・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物質・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	・物質やサービスの選択・購入、自立的消費生活としての消費行動について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
食生活・消費生活についての課題と実践	1	○ 食生活・消費生活を通して課題を設定し、実践したことをまとめる。生活改善する方法を考え実践してみた成果と課題から改善策を考案する。	・今までの食生活・消費生活で学習した基礎内容を理解している。	・食生活・消費生活の中から問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、食生活・消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。	

教科	技術・家庭		学年	3	単元のもよりの評価規準		
	単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	金属・プラスチック加工の技術を利用した製作品の製作	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に製作に取り組むことができる。 ○ 材料と加工の特性等の原理・法則と、構造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解することができる。 ○ 技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 ○ 製作に必要な図をかくことができる。 ○ 問題を見出し、課題を設定し、設計を具体化するとともに製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。 ・適切な図法を用いて、製作に必要な図をかくことができる技能を身に付けている。 ・工具や機器を使用して、安全・適切に材料取り、部品加工、組み立て・接合、仕上げができる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決策を、条件を踏まえて構想し、製作図等に表す力を身に付けている。 ・設計に基づく合理的な解決作業について考える力を身に付けている。 ・課題の解決結果や解決過程を評価、改善及び修正する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返りよりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 	
	計測・制御のプログラミングによる問題解決	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的にプログラムを制作している。 ○ 目的や条件に適した計測・制御の情報処理の手順を決定できる。 ○ 簡単なプログラムを作成できる。 ○ 情報処理についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全適切なプログラムの制作、及びデバッグ等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムがよりよいものとなるよう改善及び修正をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 	
	自分の成長と家族・家庭生活	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児期の心身の発達の特徴を知る。 ○ 幼児期の言葉の発達について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解しているとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に合った声かけや生活習慣の習得について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、問題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 	
	遊びを豊かにするおもちゃ作り	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の一日の生活は遊びが中心であることを知る。 ○ 幼児にとつての遊びの意義について考えることができる。 ○ 幼児の発達に応じた適切なおもちゃについて考え、製作する。 ○ 製作したおもちゃで幼児と遊ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の一日の生活が理解している。 ・幼児にとつての遊びの意義について理解している。 ・幼児が興味を持つようなおもちゃを製作している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ製作を通して、幼児の心身の発達を促すおもちゃの工夫について考えることができる。 ・幼児の気持ちを考えた手作りおもちゃの工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びを豊かにする遊び道具について考えることができる。 ・おもちゃ製作を通して、幼児に関心が持つことができる。 	
	幼児の生活と家族	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の体と運動機能の特徴を中学生と比較して理解する。 ○ 幼児期の心の発達、自立への歩みとなる事を理解する。 ○ 幼児の生活習慣について知り、生活習慣の習得が自立の基礎となる事を理解する。 ○ 幼児期の心の発達、自立への歩みとなる事を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解しているとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。 ・幼児の身体の発育や運動機能の発達、言葉、情緒、社会的特徴について理解している。 ・幼児の心身の発達を支える家族の役割について理解している。 ・幼児の生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割、基本的な信頼関係を築くことについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児を事故から守るために、どんな配慮が必要か工夫することができる。 ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児をいたわる気持ちや幼児の発達に関心をもつことができる。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族、幼児の生活又は地域の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。 	
	家族・家庭生活についての課題と実践	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間を通して家庭科で学んだことを踏まえ、今後の生き方やライフプランを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで育ててくれた家族や地域、関わった方へ感謝の気持ちを持ち、今後も人との関わりを大切に生活を送ることの大切さを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間で身に付けた知識を生かし、これからの生活を創造し、自立に向けて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族、幼児の生活又は地域の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。 	